

「預言者たち」
聖徒伝 147

「見よ その時代が来る」

アモス書7～9章 主の日の裁き イスラエルの回復

アウトライン

0. イントロダクション

I. 幻と確定した裁き 7章

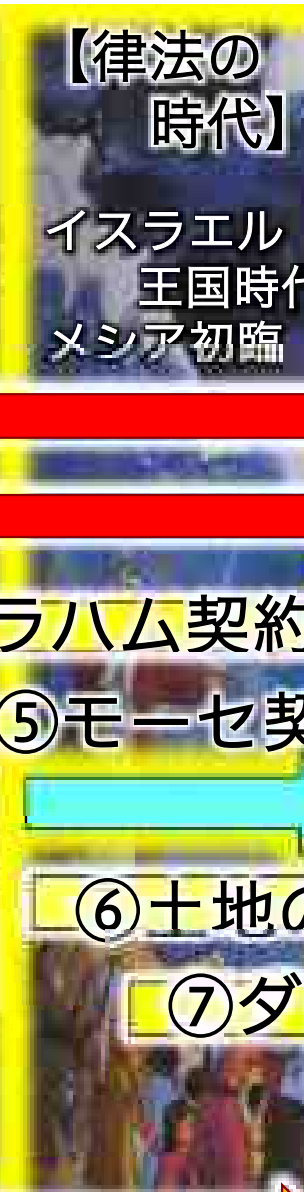
II. 主の日 8章

III. イスラエルの回復 9章

IV. まとめと適用

預言者以上の恵みを持って
今の時代に遣わされよう





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

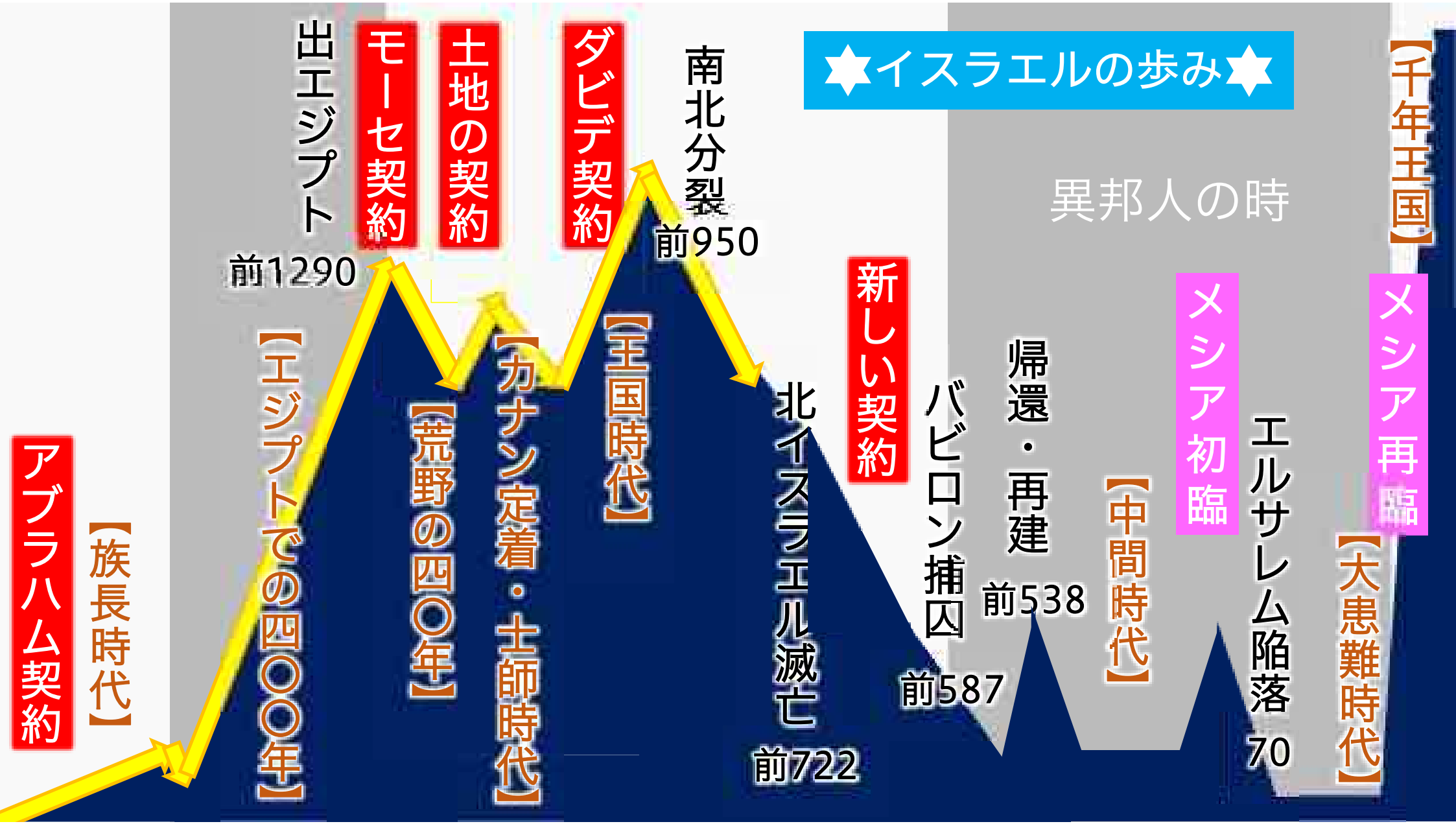
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アモス書とは？

- **著者** … **アモス** = “重荷を負う者”
- **出身** … テコア (ベツレヘムの南)
交通の防衛の要衝の町。
- **職業** … 羊飼いや農夫 (自営農)
- **時代** … ヤロブアム2世の時代の北王国。
- **場所** … 金の子牛が立てられたベテル。
- **背景** … **アッシリア**の台頭によるアラムの衰退で
南北共に最盛期を迎えていたが…。



バבל最中の警告



迫るアッシリアの脅威

- 古代から存在。BC10～7世紀の新アッシリア後期に世界帝国に。
- BC722には、北王国・イスラエルを滅ぼす。(アッシリア捕囚)
→北王国の滅びは、アモスの時代の数十年後!!

アモス書の構成

① 諸国民への裁き (1～2章)

- ダマスコ(アラム) ガザ(ペリシテ)
- ツロ(フェニキア)
- エドム アンモン モアブ
- ユダ ■ イスラエル

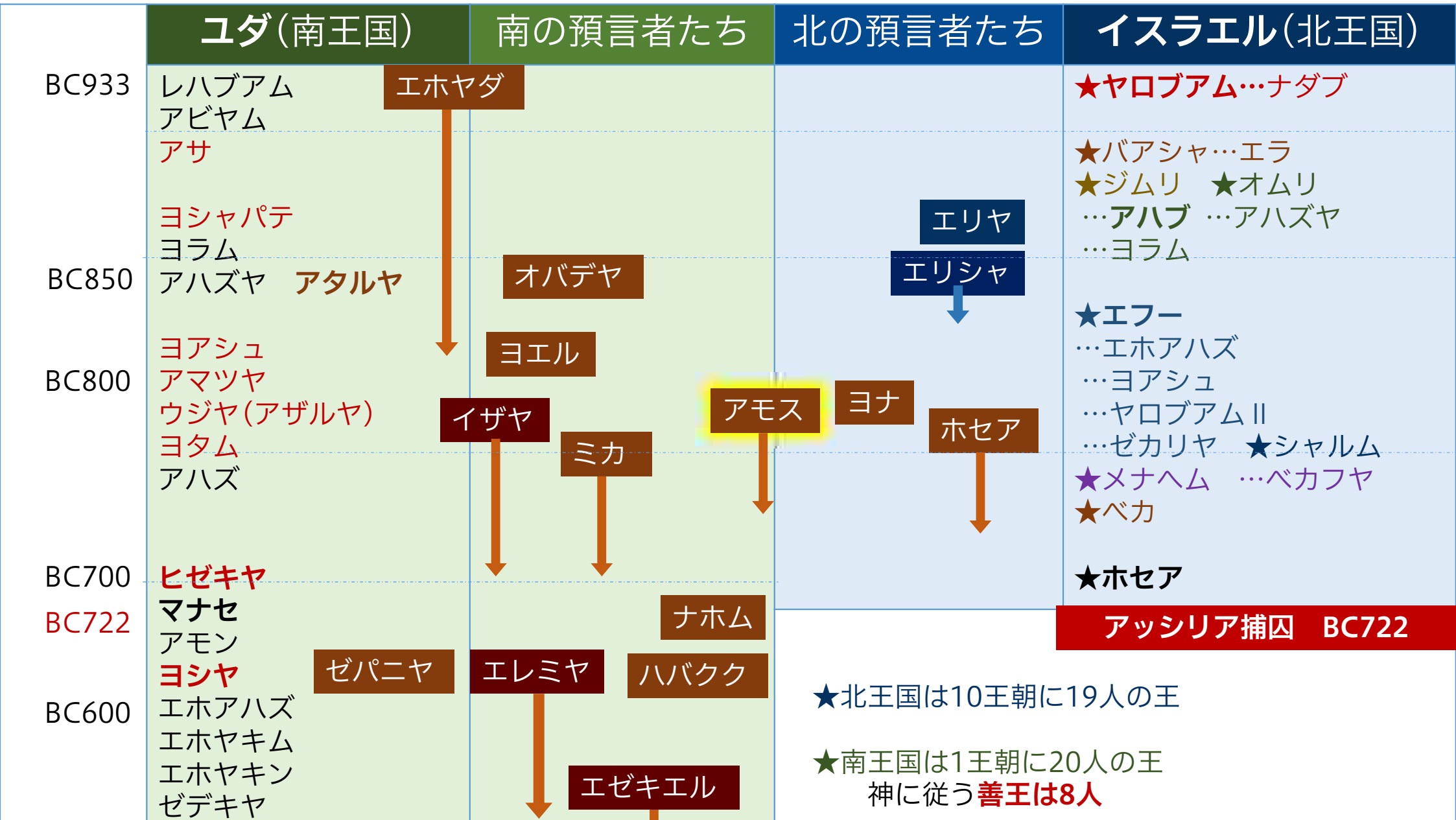
② イスラエルへの裁き (3～6章)

裁きの宣告、哀歌と嘆き

③ 5つの幻 (7～9章)

主の日。イスラエルの回復の希望。





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国イスラエル

南王国ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

アツシリア捕囚①

28年

ヨアシュ

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ
6ヶ月

17年

16年

41年

シャルル
1ヶ月

南北時代の最盛期

ヨナ

メナヘム
10年

混沌の時代

ヨアシュ ♡

40年

アマツヤ ♡

29年

ウジヤ ♡

ヨタム

ヨエル

52年

イザヤ

Ⅰ. 幻と確定した裁き

アモス書7章



エフライムの山地

第一の幻 主の示し アモス書7:1

【神】である主は私に示された*。見よ。王が刈り取った後の二番草*が生え始めたころ、主はいなごを備えられた。

*主が(幻を)示された。

→視覚的なビジョンによる神のメッセージ。

*二番目の牧草の刈り取り

イスラエルでは一番が12月頃。二番が2月頃か。

■雨期の後半。二番草の刈り取りが、

乾季(4~9月)を乗り越えられるかにつながる。



第一の幻 とりなし アモス書7:2~3

そのいなごが地の青草を食い尽くそうとしたとき、私は言った。「【神】、主よ。どうかお赦してください。ヤコブはどのように生き残れるでしょう。彼は小さいのです*。」

【主】はこれを思い直された*。そして「そのことは起こらない」と【主】は言われた。

*擬人的表現。神が思い直すわけではない。

■アモスが、神が求めることを祈ったので、主の定める基準をクリアーしたということ。

*小さな民イスラエルを主は憐れんでいる。



第二の幻 責める火 アモス書7:4～6

【神】である主は私に示された。見よ、【神】である主は、責める火*を呼ばれた。火は大いなる淵を呑み込み、割り当て地を焼き尽くそうとしていた。

私は言った。「【神】、主よ。どうかおやめください。ヤコブはどうして生き残れるでしょう。彼は小さいのです。」

【主】はこれを思い直された。そして「そのことも起こらない」と【神】である主は言われた。

*“裁きの火(口語)”“審判の火(新共)”



第三の幻 下げ振り アモス書7:7～8

主は私に示された。見よ。主は下げ振り*を手に持って、下げ振りを使って築かれた城壁の上に立っておられた。

【主】は私に言われた。「アモス、何を見ているのか。」

*垂直を測る道具



第三の幻 神の剣 アモス書7:8～9

私が「下げ振りです」と言うと、主は言われた。「見よ。わたしは下げ振りを、わたしの民イスラエルの真ん中に垂れ下げる。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない*。」

イサクの高き所は荒らされ、イスラエルの聖所は廃墟となる。わたしは剣をもって、ヤロブアムの家*に向かって立ち上がる。」

*逃れようなく明らかにされたイスラエルの罪。

*北王国の王朝。

この時代の王はヤロブアムⅡ世。

サマリアの応答が次章から!!



アマツヤ

誹謗と歪曲 アモス書7:10~11

ベテルの祭司アマツヤ*は、イスラエルの王ヤロブアムに人を遣わして言った。「アモスは、イスラエルの家のただ中で、あなたに謀反を企てています。この国は彼のどのことばも受け入れることができません。アモスはこう言っています。『ヤロブアムは剣で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く*。』」

*偶像の金の子牛に仕える偽祭司。

*あながち間違いではない。

➡アマツヤの罪は、神の言葉を認めないこと*



アマツヤ

アモス書7:12～13

アマツヤはアモスに言った。「先見者*よ。さあ、ユダの地へ逃げるがよい。そこでパンを食べ、その地で預言するがよい。ベテルでは二度と預言するな。ここは王の聖所、王国の宮だからだ*。」

*将来についての神のビジョンを告げる者。

➡預言者より格下とされていた？

➡神の意志を伝える点で預言者と同じ。

■田舎者に北王国の聖所にいる資格はないと。

*ベテルこそ、悪霊の住みか。偶像の宮。



アマツヤ アモス書7:14~15

アモスはアマツヤに答えた。「私は預言者ではなかったし、預言者の仲間でもなかった。私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた。

しかし、【主】が、群れの世話をしていたところから私を取り、【主】が私にこう言われた。

『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ』と。

- 預言者の家で生まれたわけでも、預言者学校で学んだ訳でもない、一人の羊飼、農夫を、主が選び出された。➡ 世的な根拠はない。

ただ主に従う羊飼アモスに、主が権威を与えられた



アマツヤ

主の宣告 アモス書7:16~17

今、【主】のことばを聞け。あなたは『イスラエルに向かって預言するな。イサクの家に向かって戯言を言うな*』と言っている。

それゆえ、【主】はこう言われる。『あなたの妻は町で遊女となり、あなたの息子、娘たちは剣に倒れ、あなたの土地は測り縄で分割される。あなたは汚れた土地で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」

*主のことばを戯言よばわり。➡恐ろしい罪。

■吐いた言葉すべてが、アマツヤに降りかかる。





II. 主の日 アモス書8章

主の日 一かごの夏の果物 アモス書8:1~2

【神】である主は私に示された。そこには一かごの夏の果物*があった。主は言われた。「アモス。何を見ているのか。」私が、「一かごの夏の果物です」と言うと、【主】は私に言われた。「わたしの民イスラエルに終わりが来た*。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。」

*収穫は5月頃まで。夏(乾季のただ中)の果物？

→極めて貧相な果物 = 裁き直前のイスラエル*

■ここから語られていくのは、

世の終わりの裁き。主の日についての幻。



主の日 惨劇 アモス書8:3～4

その日*には、神殿の歌声は悲鳴に変わる。
——【神】である主のことば——多くの屍
が、いたるところに投げ捨てられる。口を
つぐめ。」

聞け。貧しい者たちを踏みつけ、地で苦し
む者たちを消し去ろうとする者よ。



主の日 強欲と偽り アモス書8:5～6

あなたがたは言っている。「新月の祭りはいつ終わるのか。私たちは穀物を売りたいのだが。安息日はいつ終わるのか。麦を売りに出したいのだが。エパ*を小さくし、シェケル*を重くし、欺きの秤で欺こう。弱い者を金で買い、貧しい者を履き物一足分で買おう。屑麦を売ろう。」

*升(25 ℓ) *分銅(11.4 g)

■主の定めた祭りもそこそこに、ぼったくり商売に手を染める商人たち。



主の日 ヤコブの誇り アモス書8:7~8

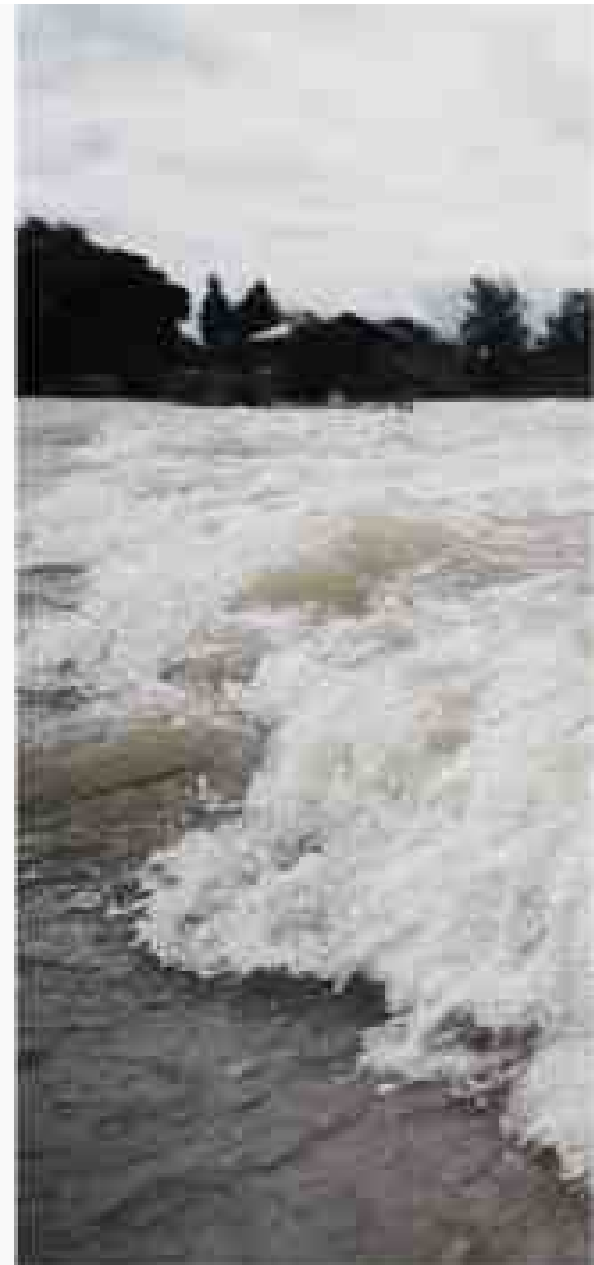
【主】はヤコブの誇り*にかけて誓われる。「わたしは、彼らのしていることをみな、いつまでも決して忘れない。

地はこのために震えないだろうか。地に住むすべての者は喪に服さないだろうか。地のすべてのものはナイル川のように持ち上がり*、エジプトの大川のように、うねっては沈まないだろうか。

*都エルサレム(アモス6:8)

*雨期には溢れた水が三角地帯を浸した。

→たとえているのは、大患難時代の天変地異。



主の日 哀歌の世界 アモス書8:9～10

その日には、——【神】である主のことば——わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くする。

あなたがたの祭りを喪に変え、あなたがたの歌をすべて哀歌に変える。すべての腰に粗布をまとわせ、頭を剃らせる。その時をひとり子を失ったときの喪*のように、その終わりを苦渋の日のようにする。

*最悪の状況。初子を失ったエジプトのように。



主の日 御言葉の飢饉 アモス書8:11~12

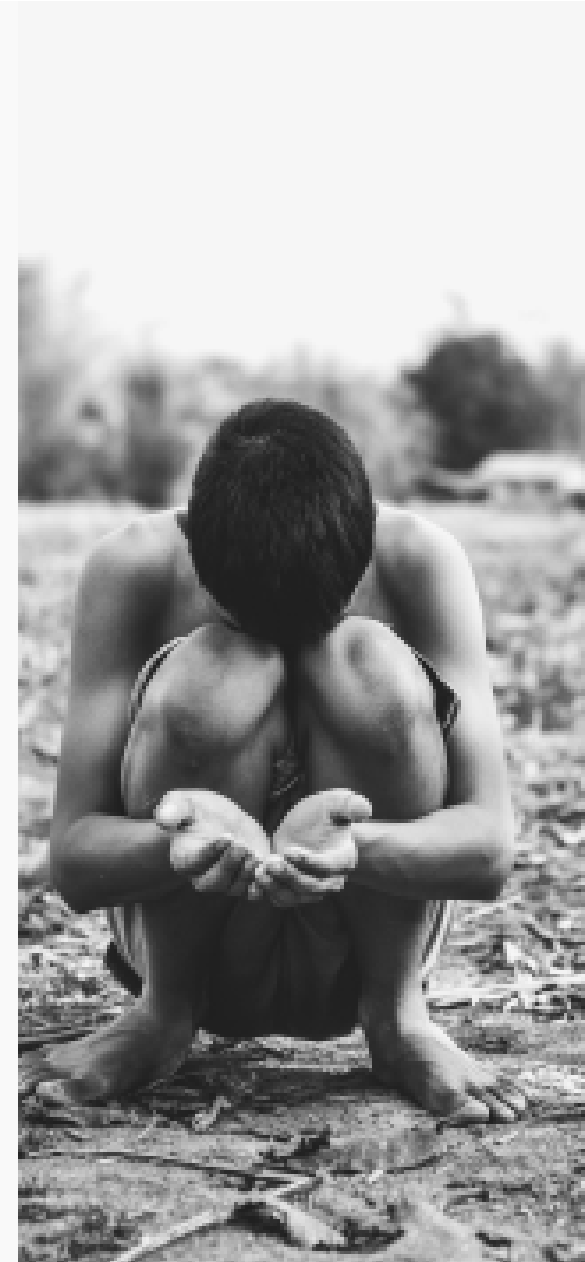
見よ、その時代が来る。——【神】である主のことば——そのとき、わたしはこの地に飢饉を送る。パンに飢えるのではない。水に渴くのではない。実に、【主】のことばを聞くことの飢饉である。

彼らは海から海へと、北から東へとさまよい歩く。【主】のことばを探し求めて行き巡る。しかし、それを見出すことはない。

■世界は、神のことばによってなった。

御言葉の喪失は、命の喪失。想像しがたい苦難。

➔どんな飢饉以上の苦しみを人類にもたらず。



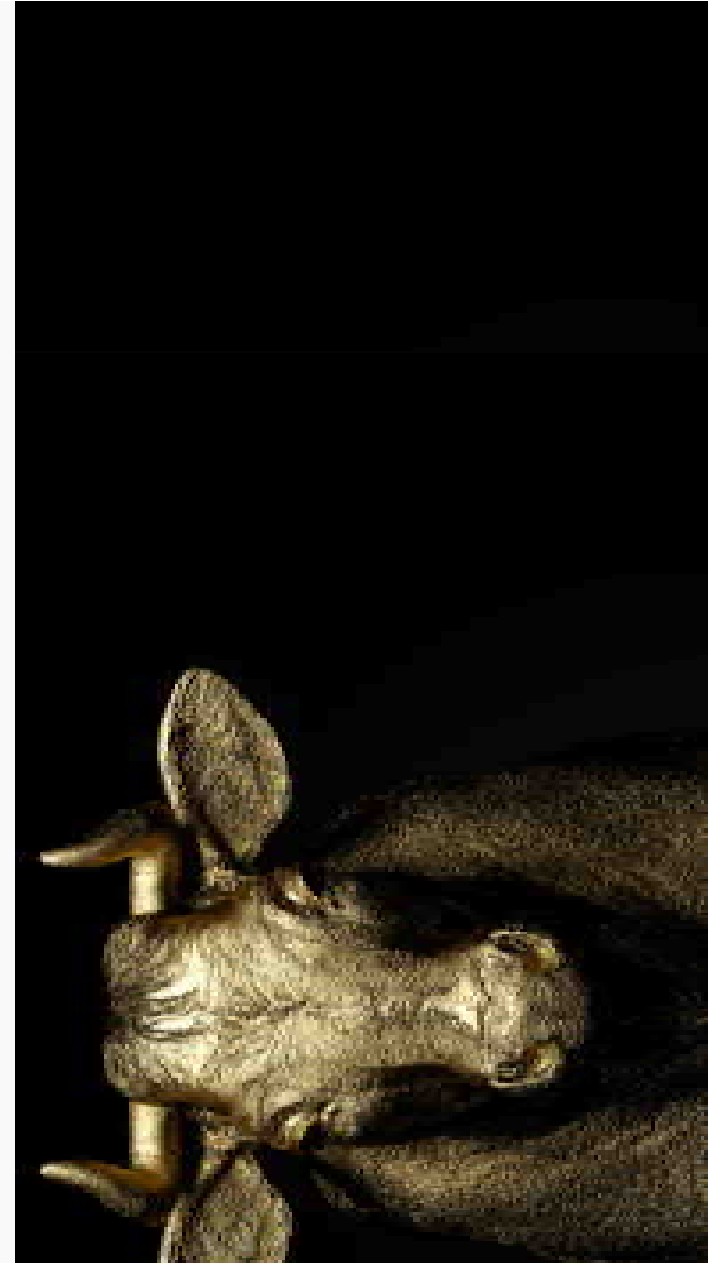
主の日 アモス書8:13~14

その日には、美しい若い女も、若い男も、渇きのために衰え果てる。

彼らは、サマリアの罪過にかけてこう誓う。

『ダンよ、あなたの神は生きている。』『ベエル・シェバの道は生きている。』しかし、彼らは倒れて二度と起き上がれない。』

■ 困窮の極みでも、なお偶像に頼り続ける者は、頑なにされ、悔い改めにいたることもない。





Ⅲ. イスラエルの回復

アモス書9章

神の裁き

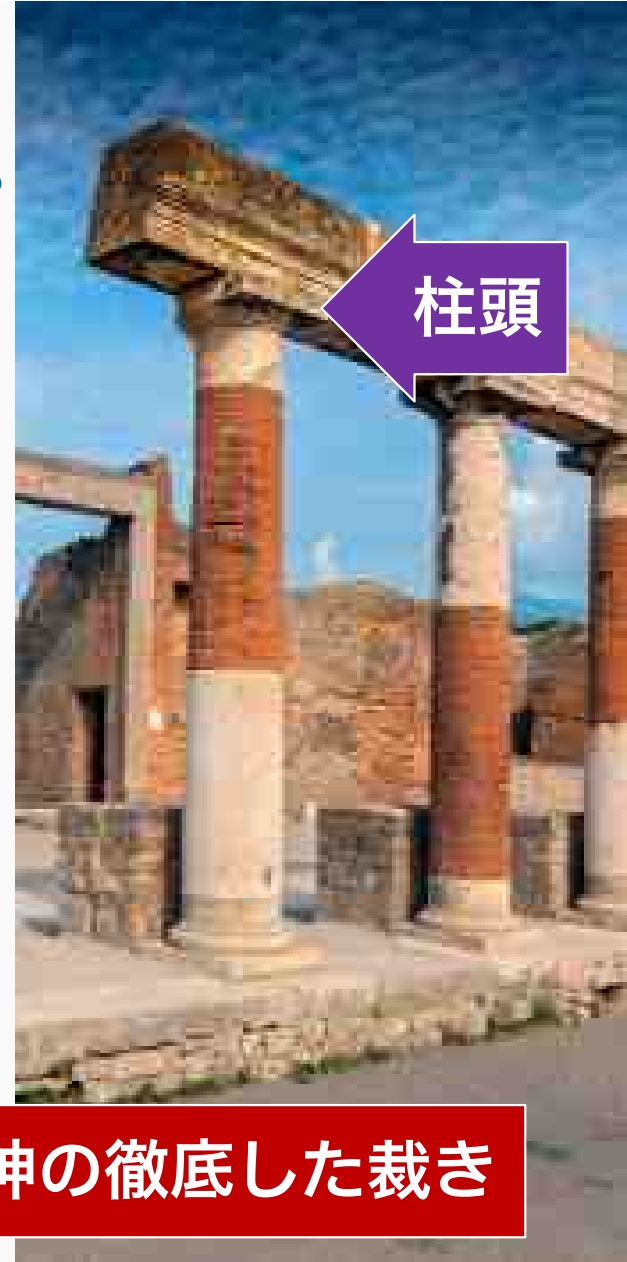
打たれる柱頭 アモス書9:1～2

私は、祭壇の傍らに主が立っておられるのを見た。すると、主は言われた。「柱頭*を打ちたたき、敷居が震えるようにせよ。すべての者の頭を打ち砕け。彼らのうち、生き残った者をわたしは剣で殺す。彼らのうち逃げられる者はなく、彼らのうち逃れられる者もない。たとえ、よみに入り込んだとしても、わたしの手が、彼らをそこから引きずり出す。たとえ、天に上ったとしても、わたしが彼らをそこから引きずり降ろす。

*屋根や梁の重さを受け止める柱の上の部分。

→柱頭が砕かれれば、建物は崩壊する。

神の徹底した裁き



神の裁き 注がれる災い アモス書9:3~4

たとえ、カルメルの頂に身を隠したとしても、わたしが彼らをそこから捜し出して捕まえる。たとえ、わたしの目を避けて海の底に身を隠したとしても、わたしが蛇に命じて彼らをそこでかませる。たとえ、敵の捕虜となって行ったとしても、わたしが剣に命じてそこで彼らを殺させる。わたしは彼らの上に目を注ぐ*。それは、わざわいのためであって、幸いのためではない。」

*通常は、祝福の場合に用いられる表現

➔主の日には、祝福はすべて呪いになる。



神の裁き 創造主による裁き アモス書9:5～6

万軍の【神】、主が地に触れると、それは溶け去る*。
そこに住むすべての者は喪に服す。地のすべてのものは、ナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように沈む*。

天に高殿を建て、地の上に丸天井*を据え、海の水を呼んで、地の面に注がれる方、その名は【主】。

*天地創造とは逆のイメージ

➔世の終わりの裁きも全知全能の神の御業

*8:8の繰り返し *大空(新共)



神の裁き 諸民族の父なる神 アモス書9:7

「イスラエルの子らよ。あなたがたは、わたしにとってクシュ人*と同じではないのか。——【主】のことば——わたしは、イスラエルをエジプトの地から、ペリシテ人をカフトルから、アラムをキルから、連れ上ったではないか。」

*ハムの長男。ニムロデの父。

エチオピア人を指すことも。

*すべての民族のルーツは、神の手にある。

➔すべての民族は神の裁きを免れ得ない。



神の裁き

裁きの選別 アモス書9:8~10

見よ。【神】である主の目が、罪深い王国に向けられている。わたしはこれを地の面から根絶やしにする。しかし、ヤコブの家を根絶やしにするのではない。——【主】のことば——

見よ。わたしは命じて、すべての国々の間で、イスラエルの家をふるいにかける。ふるっても、**小石**は地に落ちないようにする。**わたしの民の中の罪人**はみな、剣で死ぬ。彼らは『わざわいは私たちに近づかない。私たちまでは及ばない』と言っている。

■ふるいに残った石が、最後に厳しく裁かれる。



背きの民は
異邦人扱い

回復 ダビデの仮庵 アモス書9:11~12

その日、わたしは倒れているダビデの仮庵*を起こす。その破れを繕い、その廃墟を起こし、昔の日のようにこれを建て直す。

これは、エドムの残りの者*とわたしの名で呼ばれるすべての国々を、彼らが所有するためだ。
——これを行う【主】のことは。

*神の民イスラエルの回復。エルサレムの再興。

*大患難時代を生きのびた人々

■主イエスがエルサレムで王となり、イスラエルが全民族を治める。 →千年王国(メシア的王国)



回復 尽きない恵み アモス書9:13

見よ、その時代が来る。——【主】のことば——
そのとき、耕す者が刈る者に追いつき、ぶどうを
踏む者が種蒔く者に追いつく*。山々は甘いぶど
う酒を滴らせ、すべての丘は溶けて流れる。

*途切れることのない収穫のイメージ。

■貧相な夏の果物のイメージから、
厳しい神の裁きが記され、最後、
尽きることのない恵みの時代が告げられる。



終末の裁き、イスラエルの回復、永遠の御国を明確に語るアモスの



IV. まとめと適用

預言者以上の恵みを持って
今の時代に遣わされよう

アモスの預言の流れを振り返ろう

- 諸国民から始まり、ユダ、イスラエルの裁きが告げられた。
- 幾多の懲らしめにも関わらず、民は悔い改めに至らなかった。預言者は必死にとりなしたが、ついに民は回帰不能点を超えた。
- アッシリアが北王国を破壊し、民を虜囚とする。時は迫っている。
- 世の終わり・主の日に、最終的な裁きがイスラエルと全民族に下る。天変地異の災厄が世界を襲い、背く者は徹底して主に裁かれる。
- 主に信頼した、残れる者たちが、永遠の神の王国に招き入れられる。

イスラエルの祭りとメシアの生涯 終末時代

	祭りの名称	レビ記	月	日	太陽暦	メシアの生涯
春の祭り メシアの初臨	①過越の祭り	23:5	第一の月 (ニサン)	14日	3~4月	受難
	②種なしパンの祭り (除酵祭)	23:6~8	第一の月	15~21日 (7日間)	3~4月	贖罪
	③初穂の祭り	23:10~14	第一の月	除酵祭の 安息日翌日	3~4月	復活
	④五旬節の祭り (ペンテコステ)	23:15~21	第三の月 (シワン)	初穂祭の 50日後	5~6月	聖霊降臨
夏期	中間期	23:22				世界宣教 (教会時代)
秋の祭り メシアの再臨	⑤ラツパの祭り	23:24~25	第七の月 (ティシュリ)	第一日目 (新月の日)	9~10月	携拳 (空中再臨)
	⑥贖罪の日 (ヨムキプール)	23:27~32	第七の月	10日	9~10月	大艱難時代
	⑦仮庵の祭り	23:34~43	第七の月	15日	9~10月	千年王国 (再臨)



アモスの預言

【アモスの預言と聖書の記す終末】



今という時代を聖書から正しく認識しよう

■ 教会時代は、乾季の夏。残された信仰者は、貧相な夏の果物のよう。孤軍奮闘した預言者たちのように。そして、都の外で十字架にかけられた主イエスのように。世にあって、信仰者は部外者だ。

■ しかし、最大の収穫が、恵みの時代の最後にやってくる。大患難時代は、かつてない規模で人々が救われていく時代でもある。大迫害の中、多くの異邦人が信じ、イスラエルは民族的回心に至る。

■ 終末の今、私たちは預言者以上の混沌と闇の中に置かれている。困難を極める時代に、しかし主は、聖霊を信じた者に住まわせられ、完成した啓示である聖書を手元に置いてくださっている。

絶望するしかない世の現実のただ中で

- 重しがとれたように噴き出してきた、様々な既存の事実がある。
- 破滅に至ったイスラエルのように、今の世の指導者たちもこぞって偶像になびき、偽メシアをたたえている。
人々は、自分自身の欲望を絶対の神として仕えている。
- そこに希望はない。世に対して、今しっかりと絶望しよう。
主の約束に、ますますすがり、堅く握りしめよう。
- 世にも人にも、期待するな。ましてや、自分を信頼するな。
ただ一つ、信頼できる主の御言葉に、己のすべてを預けよう。

孤独に世に立ち向かう、預言者の姿に、希望と力を得る。

彼らは、誰よりも重い苦難のただ中にいながら、

誰よりも深く、大きな、主の平安に包まれていた。

主の使命に従って、ただ神の国と神の義を求めるとき、

すべての必要は溢れるほどに満たされる。

勇気も愛も喜びも、主が御霊によって、

私の心の、霊の内に、湧きだたせてくださる。

ただ主に、従いゆこう。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

預言者の時代以上の闇の中に、私たちは置かれています。

だからこそ、預言者以上の恵みをも、私たちは与えられています。

内住される聖霊と、完成した啓示の御言葉が、私を力づけてくれます。

小さな信頼に、幾倍もの恵みで答えてくださる主に、私は遣わされます。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」